【言語聴覚学科】

別記書式２

教員要件及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価１−１】専任教員の配置状況

学科等の名称	専任教員数						非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	学科長	主任教員	教員	計	基準数	うち言語聴覚士数			
言語聴覚学科	1人	ー人	4人	5人	4人	4人	7人	5.6人	
計	1人	ー人	4人	5人	4人	4人	7人	−	

※教員の区分（学科長、主任教員等）は、各養成所の実情に応じて変更すること。

【自己評価１−２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	言語聴覚士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価１−３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価２−１】養成所指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門基礎	言語学	言語学Ⅱ	15	合田　素子	教員 （専任）
	音声学	音声学	30	桐越　舞	講師 （兼任）
	音響学	聴覚心理学	15	内藤　明	言語聴覚士 （兼任）
	社会福祉・教育	社会保障制度	5	扇谷　秀樹	教員 （兼任）
		社会保障制度	5	松本　郁	社会福祉士 （兼任）
		社会保障制度	5	黒木　貴洋	社会福祉士 （兼任）
		医療福祉教育・関係法規	8	扇谷　秀樹	教員 （兼任）
専門	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害診断学	17	遠藤　朱美	教員 （専任）
		言語聴覚障害診断学	13	合田　素子	教員 （専任）
	失語・高次脳機能障害	失語症Ⅱ	18	杉山　卓弥	教員 （専任）
		失語症Ⅱ	12	岩淵　裕	教員 （専任）
		高次脳機能障害Ⅱ	10	杉山　卓弥	教員 （専任）
		高次脳機能障害Ⅱ	5	岩淵　裕	教員 （専任）
	言語発達障害学	言語発達障害Ⅱ	30	船平　舞	教員 （専任）
	発声発語・嚥下障害学	音声障害	30	合田　素子	教員 （専任）
		吃音	15	船平　舞	教員 （専任）
	聴覚障害学	小児聴覚障害	23	茂木　成友	講師 （兼任）
		小児聴覚障害	22	土井　礼子	言語聴覚士 （兼任）
		成人聴覚障害Ⅱ	15	新居　康彦	講師 （兼任）
		補聴器･人工内耳	8	内藤　明	言語聴覚士 （兼任）
		補聴器･人工内耳	7	土井　礼子	言語聴覚士 （兼任）
	臨床実習	臨床実習Ⅱ	160 （時間）	岩淵　裕	教員 （専任）
		臨床実習Ⅱ	160 （時間）	杉山　卓弥	教員 （専任）

※適宜行を追加すること。

【自己評価２-２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成所指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価２-３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価３-１】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施している。	4
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施していない。	1

【自己評価３-２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	１年後期	医学総論、言語聴覚障害概論、 リハビリテーションン医学	１年前期
評価実習	１年後期	言語聴覚障害診断学、 リハビリテーション概論	１年前期
総合実習	２年後期	失語症、嚥下障害	１年前期
		高次脳機能障害、構音障害	１年後期

※適宜行を追加すること。

【自己評価３-３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価３-４】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価３−５】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めている。	4
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防におおむね努めている。	3
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に十分に努められていない。	2
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めていない。	1

【自己評価４-１】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	ハラスメント委員会、自己評価委員会、授業評価委員会、全体研修教育部会
委員名（委員長）	ハラス（岩淵裕）、自己（古谷実）、授業（古谷実）、全体（加藤修一）
委員会等の開催頻度	ハラス（随時）、自己（年１回）、授業（年２回）、全体（年６回）
委員会等の取り組み内容	・学内および実習におけるハラスメント事例への対応
	・全ての専任教職員に教育活動全般に関するアンケートを実施し、学園本部に報告
	・授業評価アンケートの実施、シラバス作成と配布の徹底を管理
	・教育活動全般の改善に向けた研修会の計画と実施
自己点検・評価結果の公表	授業評価アンケート以外はＨＰに公表 (URL：https://www.crc.ac.jp/disclosure.html)

【自己評価４-２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	授業評価委員会
	委員構成等	教務部長、各学科および事務課担当者
	改善の仕組みの実際	委員構成員がシラバス内容を確認し、必要に応じて各学科および当該科目担当者と検討する。

【自己評価４-３】自己点検、自己評価及びその評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

教育活動全般についての教職員アンケート結果（昨年度分）を閲覧可とし、意見吸い上げをすることで、今年度の運営に活かす。